

令和5年10月27日

四條畷市議会議長 森本 勉 様

教育福祉常任委員会
委員長 吉田 裕彦

教育福祉常任委員会行政視察報告書

教育福祉常任委員会行政視察について、下記のとおり報告いたします。

記

- 1 日 程 : 令和5年9月19日(火)～20日(水)
- 2 視察先及び
視察項目 : 1日目 9月19日(火) 午後1時半から午後3時半まで
岡山県勝田郡奈義町「子育て支援事業」
2日目 9月20日(水) 午前10時から正午まで
岡山県総社市「ひきこもり支援事業」
- 3 視察委員 : 委員長 吉田 裕彦
副委員長 土井 一慶
委員 岸田 敦子、若松 正治、
長畑 浩則、島 弘一
随行者 議会事務局 中尾 恵子
- 4 行政視察報告書 別紙のとおり

令和5年度 教育福祉常任委員会 行政視察報告書（1日目）

視察日時	令和5年9月19日（火）13時30分～15時30分
視察先	岡山県勝田郡奈義町
視察内容	子育て支援事業
視察目的	令和元年に合計特殊出生率「2.95」を達成された取組みについて
調査概要	<p>奈義町での少子化対策について説明を受けた後、質疑応答。 子育て等支援施設「なぎチャイルドホーム」を見学しながら説明を受けた。</p> <p>① 平成24年4月1日に奈義町子育て応援宣言を発表 町民へ行政が約束を宣言する事で、町民は『安心感』と『心強さ』を得る。家庭・地域・学校・行政みんなが手を携え地域全体で子育てを支えるまち奈義町。</p> <p>② 奈義町の存続は、人口減少・少子高齢化が最大の課題。その対策として、定住促進を掲げ、子育て支援施策（子どもを産み育てる環境）、住宅施策（住むための環境）、魅力ある教育、就労の場の確保施策（働く環境）を実施し、現在の人口を維持することを目標とされている。</p> <p>③ 子育て支援の主な特徴</p> <p>◆保育園でのおむつのサブスク…おむつを定額で提供するサービス。保護者はおむつとおしりふきの持参が不要に。</p> <p>◆産前産後のアプローチ…保健師による新生児全戸訪問、母乳相談、産後ヘルパー</p> <p>◆なぎチャイルドホーム…会計年度任用職員6人、ボランティア7人で火曜～金曜に当番制で運営。常駐する「子育てアドバイザー」の育児相談、つどいの広場で親同士の交流、一時保育など子育て交流施設を設置。</p> <p>◆しごとコンビニ事業…「一般社団法人しごとえん」を町民全体で法人化し、町のなかの色々な仕事を子育て世代やシニア世代など「ちょっとだけ」働きたい人に仕事を提供。登録者は約290人。</p> <p>◆町独自の経済的支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育料が国基準の半額、第2子はその半額、3子以降は無料 ・小中学校給食が半額 ・小中学校の教育教材費を無料化 ・高校生までの医療費無料 ・大学生に独自の奨学育英金 ・不妊治療の助成 ・在宅育児の保護者へ月15,000円の支援金 ・高校生への年24万円の就学支援金 ・中3までのひとり親に年54,000円など支援金

	<ul style="list-style-type: none"> ・おたふくかぜやインフルエンザなどの予防接種が無料 ◆企業誘致…全 16 社に約 800 名が就労。 ◆賃貸住宅の整備…<u>少子化対策として一番貢献していると町が評価</u> 40 歳以下か子育て世帯を対象に集合住宅（月 2 万円台～5 万円）や戸建住宅（月 5 万円）を計 81 戸（満室）確保し貸出。子育てが終わっても出ていかないように分譲地の整備も実施。 ④ 高い合計出生率の鍵は5つの「<u>安心感</u>」 <ul style="list-style-type: none"> ・住むところ・働くところ・子育て負担の軽減 ・子育ての悩みや喜びの共有・町のみんなで子育てを応援する
<p>所感（意見・感想・今後の課題等）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・少子化対策は子育て世代だけの問題ではない、だからこそ課題を住民と一緒に考える、少子化対策は最大の高齢者福祉である。 ・本市においても人口減少・少子高齢化が進む中、奈義町の先進事例を参考に計画的に対策を行っていく必要があると再認識した。 ・住宅事情等厳しい中で市としての取り組みを感じた。「なぎチャイルドホーム」の方の心を感じる説明に感じ入った。自衛隊を抱えるなど、財源があるのかと感じたが、受け皿（居場所）をつくり、臨機応変でしていることも評価できる。 ・支援策のうち、大学生の奨学育英金や在宅育児保護者の支援等の経済的支援は本市にない取り組みで勉強になった。今後予算について新たな角度から提案できる知識を得られたことは成果と考える。また、「なぎチャイルドホーム」では、子育て世代のみではなく世代間交流にまで発展させている取り組みが勉強になった。 ・支援事業は、本市の 10 分の一の人口でありながら非常に充実した子育て支援策である。自衛隊の実弾演習場を誘致しており国費の補助も多いと感じた。

令和5年度 教育福祉常任委員会 行政視察報告書（2日目）

視察日時	令和5年9月20日（水）10時00分～12時00分
視察先	岡山県総社市
視察内容	ひきこもり支援事業
視察目的	社会福祉協議会が実施している「ひきこもり支援センター」の取り組み
調査概要	<p>総社市でのひきこもり支援、支援センターについて説明を受けた後、質疑応答。その後、常設居場所「ほっとタッチ」の見学をしながら説明を受けた。</p> <p>① 総社市は人口7万人弱、社会的に弱い立場の人に徹底的に寄り添うことをモットーとし、「全国屈指の福祉文化先駆都市」をめざす枠組みとして今年度、『福祉王国プログラム』を策定。ひきこもり支援もその枠組みの1つである。</p> <p>② 平成27年8月に、ひきこもり支援等検討委員会を設置し、ひきこもりの定義・理念を明確化し、ひきこもり支援施策を検討・創設した。</p> <p>ひきこもりの定義 『中学卒業後であって、おおむね6ヶ月間以上、社会から孤立している状態』平成28年1月から9月で、民生委員、福祉委員との問題意識の共有・醸成として、地区懇談会等を実施し実態把握、結果207名のひきこもりがいると解る。</p> <p>③ 平成29年度から市の独自事業として、ひきこもり支援を展開 専門相談員による相談対応として、平成29年4月にひきこもり支援センター「ワンタッチ」を開設、平成30年2月にひきこもりの支援対象者が訪れる常設の居場所「ほっとタッチ」を開設、平成30年8月にひきこもり当事者が家族にいる人たちを対象とした、ひきこもり家族会「ほっとタッチ会」を設立、ひきこもりについての理解を深めながら、家族間で交流を図る場、また、リフレッシュできる場をつくり、ひきこもり家族の孤立を防ぐとされている。</p> <p>④ 支援センターの運営は社協に委託（R4年度 約1644万円 国：700万円、市：944万円）し、生活困窮者や障がい者など横断的な総合相談支援体制を構築。センター長1名、社会福祉士の資格を持つ相談員2名、事務補助1名と精神保健福祉士による応援も受ける体制である。</p> <p>⑤ 令和元年8月に、ひきこもり支援に積極的に取り組む市長を集めた、「全国ひきこもり支援基礎自治体サミット」を開催、基礎自治体が「ひきこもり支援」を行う意義・必要性を全国へ発信</p>
所感（意見・感想・今後の課題等）	<p>・「ひきこもり」は、地域社会の課題として大きく取り上げられており、総社市は全国屈指の福祉文化先駆都市の実現を目指し、福祉に特化した施策として位置づけられている。本市においても、ひきこもりの定義を定め、取り組みを推進する必要があると認識した。</p> <p>・支援センターが設置され、個別相談やサポーター養成や居場所設置などの取り組みで実績が多く残っている。これらの対応に総社市の本気度が伺える。本市で</p>

もひきこもり対策をどの様に考えているのか機会があれば尋ねたいと思う。

- ・相談相談者は441人であるが、なかでも、本人接触による相談が152人と、市が把握しているひきこもりのうち7割を超える人と直接話ができて驚いた。ひきこもりの人も悩みながら、家族以外の人間関係を持ちたいと思っていることの表れと思う。またこの中から半数以上が居場所を利用し、ボランティア体験などから、社会参加に踏み出すことができたという。素晴らしい取り組み状況である。これを支えているのが「ひきこもりケース検討会」である。スクールソーシャルワーカーも参加し、学校での課題、ひきこもりが長期化しないよう卒業後の対応も相談との話には感動すら覚えた。本人や家族が孤立しないよう、早い段階で手を打った方が良いとの判断であり、ここには徹底して当事者に寄り添う姿勢があると感じたからである。総社市は福祉に力を入れている分、社協の体制も多く、職員が60名もいるとのこと。「市役所の隣になるため、何かあればすぐ駆け込める、支援ができる、行政の方と密にできている」との話は印象的だった。コロナ禍の相談活動で感じた点であり、施設再編ではこの意見も参考にすべきである。

- ・福祉に対しても、我々などの受け入れ状況も含めて、素晴らしいおもてなしの心を感じた。それも片岡市長の強い意志と福祉先駆を目指すとのリーダーシップが施設や職員に浸透していることを感じた。人口規模も同じで、小さな事でも前に進めば結果につながる事を実感した。大いに学びとなった。本市でも今後いかせていければと感じている。

- ・ひきこもりの実態把握から予防、支援等一連の説明を受け、これまで触れてこなかった事案も聞いたことも含め勉強になった。本市も実態把握の必要性を感じるとともに、早急に社会から孤立している市民を助けなければならないなど、今後の本市の取り組みとして新たな目標が見つかったことは成果と考える。また、「ほっとタッチ」を見学した。そこで、常設の居場所がひきこもりの人の社会参加に向けて重要であることへの理解、そして、現場で働く人の生の声や実際の建物を見ることにより、予算や建物の規模を知ったうえで本市でも実施できると判断できたことは勉強になった。

- ・市長選挙の直前と言うこともあり、偶々玄関で会った我々を部屋に招き片岡聡一市長が直接対応いただけた。非常に気さくな印象を受けた。立ち話で数分であったが、福祉政策の細やかさは市長の強い思い入れがあると感じた。社協に担当者60名の配置は実に素晴らしい。

視察の様子

1日目視察先

9月19日（火）
岡山県勝田郡奈義町



奈義町役場を訪問
しました。
（玄関前）



子育て等支援施設
「なぎチャイルド
ホーム」を見学

2日目視察先

9月20日（水）
岡山県総社市



総社市役所を訪問
した。（隣接する社
会福祉協議会）



常設居場所「ほっ
とタッチ」を見学